



2013年7月入職

う え き さ と み
植 木 里 美

看護の仕事は、業務ではなくライフワーク

能動的な行動が、最良の環境を作る

私が日々の中で心がけているのは、自分から能動的に行動を起こすことです。以前は、業務に入ると真剣になりすぎるが故、周囲へ話しかける隙を与えないような雰囲気があると同僚から指摘を受けたことがありました。「話しかけづらいな」と感じさせてしまうことで、連携不足に陥ってしまう可能性があります。これではいけないと思い、自分のイメージを変えるために「何でも声をかけてね」と私から声かけをはじめました。今では周りから話しかけられる機会が増え、スタッフとの関係も良くなっていると感じています。

現状を変えるためには能動的な姿勢が大切であり、思いやりエキスパートの候補生にも自分から立候補しました。窓口となるスタッフがクリニックにおらず、患者さまが「困ったときはこの人に聞いてみよう」と思われる存在が必要だと感じたことが立候補の理由です。ただ、思いやりエキスパートは組織全体のサービス向上を図っていく役割を担っているので、自分が思っていた以上にスケールが大きいと感じています。荷が重いと感じたこともありますが、きっとこれは私がクリアすべき試練。今後も待ちの姿勢ではなく、自分から働きかけることで最良な環境作りをしていきたいと思っています。

当たり前のことを、当たり前に行えるように



これまでのキャリアの中で印象に残っていることは、終末期を迎えていたある男性の患者さまのことです。ケアをしようと試みてもその都度跳ね返されるように、自分の殻に閉じこもっていらっしゃいました。何度アタックしても手応えがなく、心が折れそうになったこともあります。しかし、このままで本当によいかという気持ちは消えず、毎日体当たりを続けました。同年代ということもあり、なおさら力になりたかったのかもしれません。

すると、ある時期から自分の思いや生い立ちを少しずつ話して下さるようになったのです。長年ご家族と疎遠になっていたそうなのですが、チームで連携をとりご家族間のすれ違いを解消することができました。それをきっかけにご家族・ご友人の方々と過ごす時間が増え、以前よりも笑顔が増え、弱音も吐いてもらえるようになりました。この仕事は日々の業務に追われがちになりますが、「自分が患者さまだったら」という視点は常に持ち続けるように意識しています。そもそも私は今の仕事を業務として捉えていません。機械的に職務をこなすのではなく、一人ひとりに目を向けて、何がベストなのかを考える。当たり前のことかもしれませんが、私は当たり前のことを当たり前に行えるようになりたいと思っています。



患者さま ご家族さまはもちろんのこと
スタッフの声にも耳を傾け
寄り添える看護師であり続けたい

植木 里美